

<p>青少年はちのへ</p>  <p>かがみ</p>  <p>青少年健全育成シンボルマーク はちのへみんなであそぶ 八戸市</p>	<p>【発行】 号 外 八戸市教育委員会教育指導課 八戸市内丸一丁目1-1 Tel 43-2111 (内6112) Fax 47-4997 Eメールshido@city.hachinohe.aomori.jp 令和3年3月5日号</p>
---	--

東日本大震災 3.11 から 10 年 未来へつなげよう 復興への思い

平成 23 年 3 月 11 日(金)、14 時 46 分頃、三陸沖深さ 24km、規模マグニチュード 9.0 の日本国内観測史上最大の地震が発生しました。それに伴う津波により、東北地方を中心とした東日本では多くの尊い命が失われました。現在もなお多くの方々が行方不明となっており、被災地では懸命な捜索活動が続けられています。また、八戸市においても、最大震度 5 強を観測し、高さ 6.2m の津波の発生により、犠牲者、重傷者、建物の倒壊等、甚大な被害に見舞われました。

犠牲となられた方々に哀悼の意と鎮魂の祈りを捧げるとともに、御遺族の皆様にご心よりお悔やみを申し上げます。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、今年の 3 月 11 日(木)で 10 年の節目を迎えます。震災当時、幼かったり、生まれていなかったりする子どもたちが大半であることから、震災の記憶を風化させることなく、その教訓を次世代の子どもたちに継承していく必要があります。

これまで、被災地や避難先では、不自由な生活を送りながらも、手を取り合い、幾多の困難を乗り越えて、復興に向けて着実に歩んできました。また、復興に向けた様々な活動や支援を通して、人と人との絆や支え合うことの大切さを改めて実感することにより、被災地や避難先では、決して希望を失うことなく、復興への思いを今日までつないできました。

八戸市においても、国内外の多くの方々から多岐にわたる支援をいただき、市民が総力をあげて復興に向けて尽力してきました。そこで、今回は、大久喜漁港にある巖島神社の鳥居が紡いだ奇跡の物語を裏面で紹介します。

今般の新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3密を避けた新しい生活様式が求められる中、人とのつながりの重要性が再認識されています。コロナ禍において、様々な活動が制限されている状況ではありますが、震災の記憶や教訓を風化させることがないように、全国各地で新たなかたちで震災を伝承する取組が推進されています。

今後も、あらゆる機会を通じて、今回、紹介する物語や震災の記憶や教訓を将来に語り継ぐとともに、震災という苦い経験の中で紡がれた温かな人と人との絆や支え合いの心を忘れることなく、復興の思いを未来へとつないでいきましょう。



大久喜地区の巖島神社に返還・再建された
「太平洋を渡った『奇跡の鳥居』」

海を渡った「奇跡の鳥居」

2011年3月11日、日本国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した「東北地方太平洋沖地震」が発生しました。激しい揺れや大津波が東日本の太平洋沿岸部を襲い、死者・行方不明者2万人以上、建造物の全半壊40万戸以上にも上った未曾有の大災害は「東日本大震災」と名付けられました。なかでも、高さ30mを超える津波が海沿いのまちを飲み込む様子は、世界中に強い衝撃を与えました。八戸市沿岸にも高さ6m以上の津波が押し寄せ、漁業が盛んな大久喜地区では漁船や漁港施設などに壊滅的な被害を受け、地域住民の信仰の場であった、ここ弁天島の厳島神社も津波に飲まれてしまいました。

それから2年後の2013年春、日本から約7000km離れた米国オレゴン州の海岸に、長さ4.5m前後の赤く塗られた木材が2本相次いで漂着しました。この出来事は現地で話題となり、同州ポートランド市にある北米最大の日本文化紹介施設の「ポートランド日本庭園」に偶然伝わると、日本から流れ着いた、神社にある鳥居の笠木であると判明したのです。同庭園はその後、漂流の傷跡が深く刻まれ、もしかすればそのまま朽ちたかもしれないこの笠木を、日本人が古来より大切にしている神聖なものとして丁寧に保管しました。同時に、震災でかけがえのないものを失ってしまった人々の力になりたいと考え、笠木に付属の木札に刻まれていた奉納者の名前を唯一の手掛かりに、持ち主を探しました。

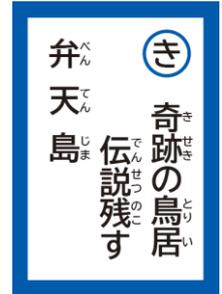
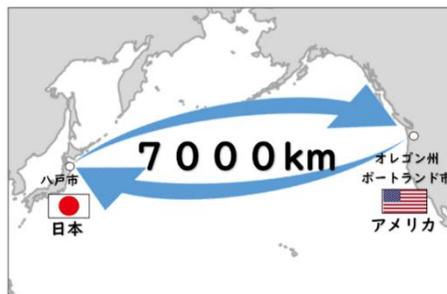
しかし、庭園関係者の懸命な努力にも関わらず、有力な情報は得られませんでした。2014年5月には日本を訪問し、東北地方の被災地にある神社をくまなく丁寧に探しましたが、状況は変わりません。このような中、2014年7月、日本の協力者が八戸市博物館に問い合わせたことで、事態が大きく進展します。奉納者の名前が、博物館とともに活動する大久喜法師漁業民俗保存会の一人と一致することが分かり、2本の笠木はここ弁天島から流失した鳥居のものと確認されたのです。

2015年10月、2本の笠木は4年ぶりに八戸へ里帰りを果たしました。そして、半年後の2016年4月、ポートランド日本庭園をはじめとして、日米の多くの人々や企業の協力を得て、遂にこの地に鳥居が再建されたのです。度重なる偶然だけでなく、多くの人々の支えによって鳥居が再建されるまでの出来事は、太平洋を越えて人と人をつなぎ、悲しみの中にあつた人々に希望を与えた、まさに奇跡の物語です。そして、その後も八戸市とポートランド市は、青少年の交流などを続け、日米両国の間に新たな絆と友情を育んでいます。

東日本大震災から10年の節目を迎えたことを機に、震災の記憶と鳥居の再建に御尽力いただいたポートランド市民をはじめとする全ての方々の功績を後世に伝えるため、ここに鳥居が紡いだ奇跡の物語を記します。



米国オレゴン州の海岸に漂着した笠木



この物語は『はちのへ郷土かるた (令和版)』にも取り上げられています